

第683回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2026年5月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

テレメンタリー2026

「わたしらしく、生きる ～認知症とユマニチュード～」

放送日時：4月21日(火) 深夜1時40分～

◇ その他

2026年5月18日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第683回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2026年5月18日(月) 15時30分～17時00分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	山根	久資
副委員長	森	慎二
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	林田	真心子
委員	松瀬	萌々香
委員	菊池	文隆

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
取締役 報道制作局長	大迫	順平
執行役員 総合編成局長	柴田	高宏
広報室長	原	由美子
報道制作局 報道情報センター長 (番組プロデューサー)	井尻	崇
報道制作局 報道情報センター (番組ディレクター)	村松	一史
総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤	礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永	俊郎

4. 議題

(1) テレビ番組

テレメンタリー2026「わたしらしく、生きる ～認知症とユマニチュード～」

放送日時：4月21日(火) 深夜1時40分～

(2) 5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 4月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 「ユマニチュード」という認知症のケア技法を初めて知った。自分や近親者が認知症になったときに実践したいと思った。内容や効果が分かりやすく伝えられていたと思う。
- ユマニチュードや「情報医療」など、超高齢化社会における認知症という課題の参考になる情報が詰め込まれた意義深い番組だった。
- 在宅介護でユマニチュードに取り組む人や、ユマニチュードを導入する介護施設、ユマニチュードの考案者などの視点がバランスよく配置されていた。
- 介護の現場に深く入り込んでおり、介護する側の苦悩や葛藤がよく表現されていた。在宅介護と介護施設の事例から、それぞれの感じ方の共通点と違いを知ることによって、ユマニチュードについて複眼的に考えることができた。
- ユマニチュードの考案者であるイヴ・ジネストさんの実践により、入居者の表情や行動が変わる姿を見て、愛情を伝えることがいかに大事で、愛情が人間の様々な機能を蘇らせる力を持つことに強く心を動かされた。
- 歯磨きを拒む介護施設の入居者がそれを受け入れたり、表情の乏しかった別の入居者が笑顔を見せた場面は、ユマニチュードの実効性の伝え方として説得力があった。
- 自分や家族の将来に不安を抱く人は少なくない。社会の悩みを共有するプラットフォームになることも、地域メディアが果たすべき役割だと思った。
- イヴさんの「(高齢化を)津波のような災害だというふうに捉える側面があるが、それは間違いだ」という言葉に、自分自身を振り返るきっかけをもらった。
- ユマニチュードは意思疎通がしにくい相手の尊厳を尊重する姿勢という意味で、介護の分野にとどまらず、広く「気づき」を与えてくれた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- ユマニチュードの有効性に重心が寄り、万能であるかのように受け取られる可能性に少し注意が必要だと感じた。
- ユマニチュードを導入する難しさや限界、あるいは上手くいかないケースなどへの掘り

下げがやや不足しているように感じた。

- タイトルを「わたしらしく、生きる」にした理由や、“わたし”が誰を指すのかが気になった。
- 病気で判断能力が低下している介護施設の入居者を撮影する際の配慮は十分だったのか気になった。
- 番組の冒頭や最後に「本番組の制作にあたっては、ご家族の同意を得ております」というテロップやナレーションを入れてもよかったのではないか。
- 福岡市の取り組みについて、全体像が理解できなかった。福岡市の普及施策を紹介したり、視聴者が行動に移すための相談窓口や講習の案内などの実務情報もほしかった。
- 脳科学の観点から解説をする識者とユマニチュードの関係性が分からなかった。
- ユマニチュードが国や他の都道府県へ広がらない理由が知りたいと思った。広がらないのには人手不足以外の課題や懸念があるのではないかと感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 2018年に「アサデス。」でユマニチュード取材したことが発端。イヴさんの実践で介護施設の入居者の表情や行動が変わる様子を見て、視聴者に伝えるべきだと感じ制作に当たった。
- ユマニチュードに対する世間のイメージを多少は具現化できたと思っているが、介護の現場が抱える苦悩や葛藤もあるし、ユマニチュードの失敗例もある。有用性だけを伝えることがないように心掛けたが、尺の都合から紹介しきれない部分もあった。
- タイトルは「あなたらしく、生きる」とする案もあったが、介護する側とされる側の両方が“自分らしくあるため”という意味を込めて「わたしらしく」にした。
- ユマニチュードによって介護施設の入居者の表情や行動が変化する様子を伝えたかったので、全員から許可を得てモザイクをかけないことにした。
- 福岡市の取り組みを紹介するパートが短くなり具体例を紹介できなかったが、福岡市では小中学生を対象とした研修や学びの場を準備している。福岡市は、先行する自治体として、ユマニチュードのよさを広く世間に伝えたいと考えている。
- 解説をした識者は「情報医療」という考え方の第一人者。脳科学者として、ユマニチュードは情報医療の一つと提唱されている方であることを少しフォローすべきだった。
- 全国へ広がらない理由の一つは現場のハレーションではないか。長期的には負担が軽減されるものの、時間を要するので「理解されにくい」ことが普及を妨げる要因だと思う。ただし、先行して取り組む福岡市への問い合わせは年々増えていると聞いている。

などの説明をしました。